

3 民生児童委員の活動

話の中で感じる“気づき”を大切に ～高齢者見守り事業～



関係機関との連携

高齢者の一人暮らし、高齢者のみの世帯が増えている中、平成22年度から地域包括支援センターと村社会福祉協議会、民生児童委員の3者が連携しながら『高齢者見守り事業』を実施しています。地域包括支援センターが対象者を選定し、民生児童委員が対象者を訪問。村社会福祉協議会が訪問記録を管理し、3者で情報を共有しています。

民生児童委員による訪問活動

霧出地区の一部を担当区域にもつ民生児童委員の大沼雅嘉さん（上土沢）は、毎月3件の高齢者世帯を訪問しています。認知症を患っている一人暮らしの高齢者やいろいろな問題を抱えている高齢者などケースはさまざま。「話すのがあまり得意ではない」という大沼さんですが「話の中で引っ掛かったり、気になったりするところがあれば、見逃さないように心がけている」と“気づき”の大切さを話していました。

まずは声かけから

大沼さんの担当区域内には、現在一人暮らしの高齢者が約10世帯、80歳以上の夫婦のみの世帯も数世帯あります。見守り事業の対象にはなっていない方についても、ときどき訪問し、顔を合わせ声を聞き、地域の高齢者を見守っています。

大沼さんは「区長さんも高齢者の方々とよく話をしてくれたり、いろいろ協力してくれたりするので助かっている。これからも声かけなどしっかりしていきたい。その中で、不足しているところや困っているところなど、ひろい上げていけたら良い」とこれからの取り組みについて話していました。

～村の認知症高齢者数～ (平成26年3月1日現在)

【高齢者数】 2,265人
【認知症数】 322人

⇒高齢者のうち 14.2%の人が認知症

要介護認定者は増加傾向
先日の新潟日報で、85歳以上の二人に一人は認知症の可能性があると掲載されていました。世の中では、認知症が排除される風潮がありますが、超高齢社会の今、排除どころか社会全体の問題としてとらえなければなりません。村では、平成28年度をピークに65歳以上の高齢者の数は減少傾向になります。

今後の課題として取り組みについて

地域包括支援センター

一方で、要介護認定者が多く占める80歳以上の高齢者の数は増加傾向にあります。だからこそ、見守りや地域の支え合いなど、今、やらなければいけない時期にあります。地域包括支援センターとしても関係者を巻き込んで体制の整備に努めていきます。同時に、元氣な高齢者が手助けの必要な人を支えていく仕組みづくりも進めていかなければなりません。そのためにも高齢者に元氣な状態を維持してもらうための取り組みに力を入れていきます。

高齢者の『出番』を大切に

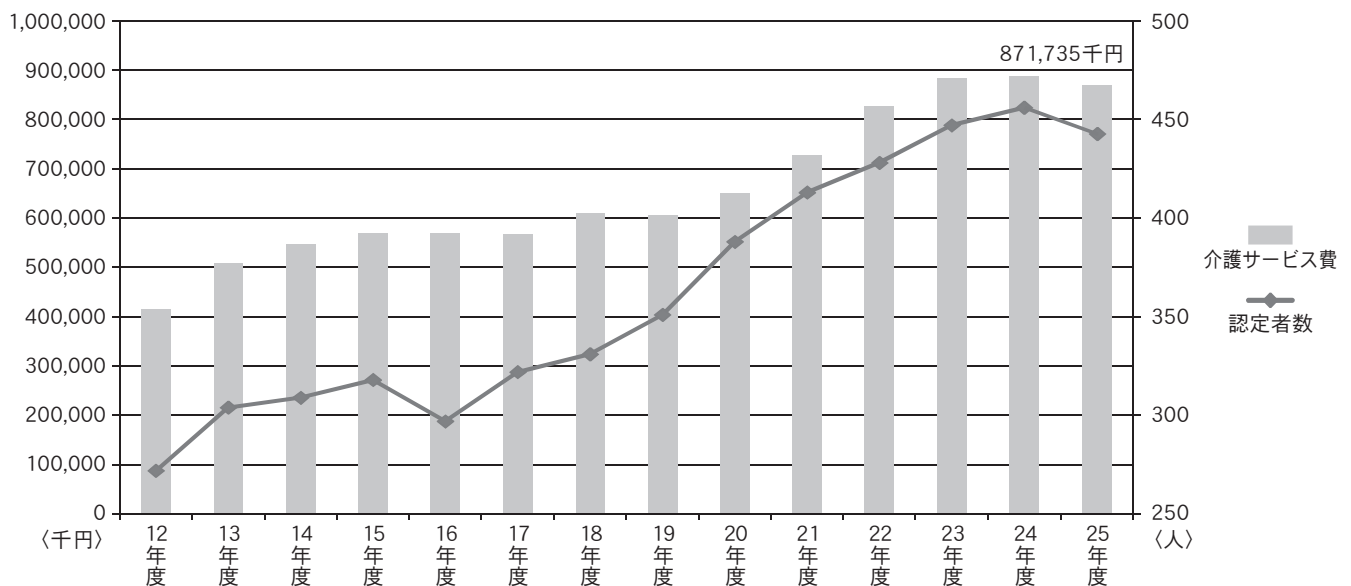
家の中でも外でも「危ないからダメ」と言うのではなく、高齢者の活躍できる場を確保することが大切です。

『出番』を与えることで、高齢者にとって生きがいとなり、介護予防への第一歩になるものと考えています。

平成25年度の介護サービス費 前年並みの8億7千万円

介護サービス費・認定者の推移

平成25年度の介護サービス費は、約8億7,200万円。介護認定者数は444人、認定者一人当たりの給付額は約196万円となりました。介護サービス費・介護認定者は前年に比べ、わずかに減少しましたが、村の総人口に占める65歳以上の割合は年々伸びていて、36%となりました。



介護保険制度

誰でも高齢になると、介護が必要になる可能性があります。

自分や、家族がそのような状態になったとき、家族だけではなく他からの手助けが必要になるかもしれません。そこで、皆で支え合い、いざ介護が必要になったときでも、住み慣れた地域で、いつまでも健やかに暮らせるよう誕生したのが「介護保険制度」です。

生き生き健康的な生活を送るために!!

体や頭を使わない生活をしていると、筋力や意欲の低下につながります。そのため、元気づうちから介護予防を行うことが大切です。

運動や趣味、買い物、身近な畑仕事なども生きがいづくりとなり介護予防につながります。いつまでも元気でいられるように心がけていきましょう!

【問い合わせ先】 介護相談に関すること 地域包括支援センター ☎ 64-1473
保険料に関すること 住民福祉課健康介護班 ☎ 64-1472